



ハワイの高校生との共同研究に向けて、ミーティングを行いました。

普通科
探究科

ハワイの Maryknoll School (マリノールスクール) の高校生と共同研究に取り組む、探究科の1年次生2人が、研究に向けたミーティングを1月20日(土)に行いました。日本時間の午前10時からオンラインでミーティングを開始しましたが、日本との時差は大きく、ハワイでは1月19日(金)の午後3時でした。このたびのミーティングでは、3人が興味をもった出来事を互いに紹介しました。本校の生徒は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が9月7日(木)に種子島宇宙センターから



ハワイの高校生とミーティングを行う本校の生徒



ハワイの高校生にSLIMを紹介

打ち上げた小型月着陸実証機「SLIM」が、ミーティングが始まるおよそ8時間前に月に着陸したことを英語で紹介することができました。

ミーティングでは、これから取り組む研究テーマを絞るため、環境問題についてディスカッションしました。これにより、次回のミーティングでは、それぞれの国でプラスチックの使用を控えるために実践されているプラスチックフリーの取組についてポスターにまとめ、互いに送付して検討することにしました。

芸術科(書道)や公民科の授業において、ユニットカリキュラムを実施しました。

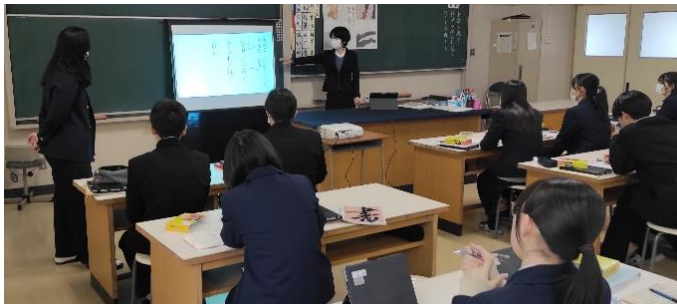
普通科
探究科

普通科2年次の文系コースを対象とした芸術科の書道Ⅱの授業において、国語科とのユニットカリキュラムを1月23日(火)に実施しました。書道Ⅱの授業で取り上げた、万葉集第16巻の3803番歌は、詠み人知らずの和歌で「隠(こも)りのみ恋ふれば苦し山の端(は)ゆ出で来る月の頭(あらか)さばいかに」と詠われています。



散らし書きの草稿を考える生徒

預金残高を超えた金額を扱うことができるしくみで、これにより社会全体の通貨の流通量を増加させることができます。教科書には、数式で信用創造により扱える預金総額を求める方法が示されており、この数式の扱い方を数学科の教員が解説しました。このたびの授業により、生徒は、数学が生活の中で生かされていることを知る機会となりました。



和歌に込められた心情について理解を深める生徒

国語科の教員による和歌の解説により、生徒は和歌に込められた心情を理解しながら、散らし書きの草稿を考えることに挑戦しました。

また、1月31日(水)に2年6組で、2月6日(火)に2年5組で行った公民科の公共の授業において、信用創造のしくみを扱い、数学科とユニットカリキュラムを実施しました。信用創造とは、それぞれの銀行が社会的な信用を背景に、



数式を使って、信用創造のしくみの理解に挑戦する生徒

人文社会科学科の2年次生が、英語でプレゼンテーションに挑戦!

探究科

2月6日(火)のディベート・ディスカッションIの授業において、人文社会科学科の2年次生18人が6つの班に分かれて、英語を用いたプレゼンテーションに挑戦しました。このたびのプレゼンテーションのテーマは「難民」で、生徒はこれまで調べた結果をスライドにまとめ、3分間で発表しました。



緒方貞子さんの活動を紹介する生徒

発表では、難民の定義や難民になってしまう原因を紹介するとともに、近年課題となっている偽装難民について考察し、発表した班がありました。また、国連難民高等弁務官事務所(以下、「UNHCR」という。)の活動を紹介します。また、かつてUNHCRで国連難民高等弁務官を務められた緒方貞子さんがクルド難民を支援するために行った活動を解説した班もありました。人文社会科学科の2年次生にとっては、英語でプレゼンテーションを行う活動は、これで2回目となりました。前回の発表に比べ、スライドに示したキーワードをもとに説明するなど、プレゼンテーションの技術の向上がみられました。伝わるプレゼンテーションを目指し、これからも表現力を向上させてください。

探究科3年次の数学班が、算数・数学の自由研究作品コンクールで「敢闘賞」を受賞!

探究科

塩野直道記念算数・数学の自由研究作品コンクール第11回(2023)において、最終審査に出場することができた探究科3年次の数学2班が、第8ブロック(中国・四国地方)の予選において敢闘賞を受賞した旨の連絡をいただきました。本コンクールは、一般財団法人理数教育研究所が主催するもので、当該研究所の設立にかかわった新興出版社啓林館の担当の方が、このたびの入賞を知らせるため、本校に来校されました。担当者の方によると高等学校の部では山口県からの出品は初めてのことであり、数学班の作品は、第8ブロックの審査員を務められた大学の先生方からも高く評価され、最終審査に進むことができたようです。本コンクールは、日常生活や社会で感じた疑問を数学の力を活用して解決し、その結果をレポートにまとめて応募するものです。担当の方から、令和6年度の作品の受付期間は、8月20日(火)から9月6日(金)までと御案内いただきました。一人で取り組む個人研究でも応募できますので、探究科に限らず普通科のみなさんも春季休業や夏季休業を利用して、身近な課題を数学で解決し、応募してみませんか。



実験を通して1/fゆらぎが学習に与える影響を明らかにした数学班の生徒

実験を通して1/fゆらぎが学習に与える影響を明らかにした数学班の生徒

普通科の2年次生が、第34回日本数学オリンピックで「地区表彰」を受賞!

普通科

探究科

第34回日本数学オリンピックの予選に参加した普通科の2年次生が、福岡地区の地区表彰を受賞しました。地区表彰は、受験したそれぞれの地区において、上位約10%の成績を収めた高校生に贈られるものです。北九州市の福岡県立小倉高等学校で受験した本校の生徒は、福岡地区の受験者292人のうち、27位以内の成績を収め、このたびの受賞につながりました。残念ながら、福岡地区から本選に出場した10人には届きませんでしたが、このたびの経験を生かし、数学を用いて様々な課題解決に挑戦してください。



地区表彰を受賞した生徒

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。